

【報告様式】 第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価(令和4年度実績評価)

資料2

市町村名	北杜市	所属名	介護支援課
担当者名	自立支援・重度化防止	介護保険担当・介護予防担当・包括支援担当	
	介護給付適正化	介護保険担当	

※ 「介護保険事業(支援)計画の進捗管理のための手引き」(P.33～47)等を参考にご記入ください。
 ※ 「県計画との関連」については、「県計画の目標」シートや別添「健康長寿やまなしプラン概要版」(R3～5)から、関連する県計画の項目を選択してください(当てはまらない場合や不明な場合は「その他」を選択してください)。
 ※ 評価は5段階評価とし、良い方から「5・4・3・2・1」としてください。

《 評価の目安 》 達成率 80%以上: 「5」 達成率 60～79%: 「4」 達成率 40～59%: 「3」 達成率 20～39%: 「2」 達成率 19%以下: 「1」

市町村名	番号	総括表		フェイスシート			令和4年度(実績評価)		取組の効果や成果として考えられること					
		【区分】 ①「自立支援、介護予防・重度化防止」 ②「介護給付適正化」から選択してください	【県計画との関連】 「県計画の目標」シートや「県計画概要版」を参考に、関連すると思われる県計画の項目を選択してください(当てはまらない場合や不明な場合は「その他」を選択してください)。	タイトル	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標(事業内容、指標等)	目標の評価方法		実施内容	自己評価 評価(1～5)	課題と対応策		
北杜市	1	①自立支援、介護予防・重度化防止	I (2)介護予防・健康づくりの推進	I (2)介護予防・健康づくりの推進	介護予防・健康づくりの推進(一般介護予防事業等の推進)	地域介護予防活動支援事業 高齢者交流の場促進事業 地域リハビリテーション活動支援事業 健康寿命の延伸プロジェクト事業	<ul style="list-style-type: none"> ○介護予防普及啓発事業 <ul style="list-style-type: none"> ・講演会参加者数 R3:150人 R4:160人 R5:170人 ・講演会満足度 R3:95.0% R4:95.0% R5:95.0% ・はつらつシルバーのついで事業開催回数 R3:180回 R4:195回 R5:190回 ・はつらつシルバーのついで事業参加者数 R3:3,500人 R4:3,550人 R5:3,600人 ・人生100年時代マネジメント講座開催回数 R3:4回 R4:4回 R5:4回 ・人生100年時代マネジメント講座参加者数 R3:100人 R4:100人 R5:100人 ○介護支援ボランティア事業 <ul style="list-style-type: none"> ・会員数 R3:185名 R4:190名 R5:195名 ・実働会員数 R3:85名 R4:70名 R5:75名 ○介護予防サポートリーダー養成事業 <ul style="list-style-type: none"> ・登録者数 R3:145人 R4:155人 R5:165人 ・研修会参加者数 R3:215人 R4:230人 R5:245人 ・公民館カフェ会場数 R3:41会場 R4:42会場 R5:43会場 	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者交流の場促進事業 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者交流の場補助金交付数 R3:47件 R4:50件 R5:53件 ○地域リハビリテーション活動支援事業 <ul style="list-style-type: none"> ・住民主体の交流の場支援数 R3:8回 R4:9回 R5:10回 ・介護事業所支援回数 R3:8回 R4:8回 R5:8回 ・機能訓練・口腔機能向上・栄養改善事業開催回数 R3:2回 R4:3回 R5:4回 ○健康寿命の延伸プロジェクト事業 <ul style="list-style-type: none"> ・フレイルチェック開催回数 R3:8回 R4:12回 R5:16回 	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施 <ul style="list-style-type: none"> ・研修会・検診会 R3:2回 R4:2回 R5:2回 ○後期高齢者健康診査事業 <ul style="list-style-type: none"> ・受診率 R3:25.78% R4:25.78% R5:25.78% ○保健福祉推進員活動事業 <ul style="list-style-type: none"> ・研修会 R3:12回 R4:10回 R5:12回 ・地域の健康や活動の理解度 R3:100.0% R4:100.0% R5:100.0% ・研修会参加率 R3:70.0% R4:80.0% R5:80.0% ○食生活改善推進員養成・活動事業 <ul style="list-style-type: none"> ・代表者研修会 R3:4回 R4:4回 R5:4回 ・地区活動 R3:120回 R4:130回 R5:140回 ・地区活動参加者数 R3:3,200人 R4:3,500人 R5:3,800人 ○健康教育事業 <ul style="list-style-type: none"> ・健康教室開催回数 R3:50回 R4:70回 R5:70回 ・健康教室参加者数 R3:800人 R4:3,000人 R5:3,500人 ・講座内容理解度 R3:90.0% R4:95.0% R5:95.0% ○健康相談事業 <ul style="list-style-type: none"> ・健康相談実施回数 R3:350回 R4:400回 R5:450回 ・健康結果指導率 R3:80% R4:90% R5:99% ○健康診査事業 <ul style="list-style-type: none"> ・総合健康診査実施日数 R3:47日 R4:47日 R5:47日 ・特定健診実施日数 R3:45.0% R4:50.0% R5:60.0% ○訪問指導事業 <ul style="list-style-type: none"> ・訪問指導延べ人数 R3:150人 R4:200人 R5:250人 ○健康づくり推進事業 <ul style="list-style-type: none"> ・いこちチャレンジ健康ほく取組人数 R3:1,500人 R4:2,000人 R5:2,500人 	<ul style="list-style-type: none"> ○介護予防普及啓発事業 <ul style="list-style-type: none"> ・講演会参加者数 R4年度実績:183人 ・講演会満足度 R4年度実績:未実施 ・はつらつシルバーのついで事業開催回数 R4年度実績:59回 ・はつらつシルバーのついで事業参加者数 R4年度実績:802人 ・人生100年時代マネジメント講座開催回数 R4年度実績:4回 ・人生100年時代マネジメント講座参加者数 R4年度実績:150人 ○介護支援ボランティア事業 <ul style="list-style-type: none"> ・会員数 R4年度実績:203名 ・実働会員数 R4年度実績:53名 ○介護予防サポートリーダー養成事業 <ul style="list-style-type: none"> ・登録者数 R4年度実績:169人 ・研修会参加者数 R4年度実績:279人 ・公民館カフェ会場数 R4年度実績:41会場 ○高齢者交流の場促進事業 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者交流の場補助金交付数 R4年度実績:58件 ○地域リハビリテーション活動支援事業 <ul style="list-style-type: none"> ・住民主体の交流の場支援数 R4年度実績:7回 ・介護事業所支援回数 R4年度実績:8回 ・機能訓練・口腔機能向上・栄養改善事業開催回数 R4年度実績:1回 ○健康寿命の延伸プロジェクト事業 <ul style="list-style-type: none"> ・フレイルチェック開催回数 R4年度実績:9回 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防普及啓発事業については、新型コロナ感染症拡大により介護予防講演会はYouTubeでの配信とした。また、はつらつシルバーのついでも感染症の影響により開催数参加者数共に伸びなかった。 ・高齢者通いの場の補助金を交付し、令和4年度は新規で7箇所の高齢者通いの場が開設された。新型コロナウィルス感染症の影響で計画通りに実施できない団体もあったが、予防対策を徹底する中で多くの団体が予定通り開催できた。実施できなかった団体も地域の見守りや利用者宅を個別訪問するなどの活動を行ってもらえた。 ・介護支援ボランティア事業において、会員数は増加したが実働会員数が減少した。新型コロナウイルス感染症の影響により受け入れ施設の減少によるものと考えられる。 ・地域リハビリテーション活動支援事業においては、介護事業所への支援が昨年度より多くの回数で実施できた。 ・健康寿命の延伸プロジェクト事業のフレイルチェックは通いの場での開催数が昨年度より増加した。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウィルス感染症の影響により集客してのイベントや事業の目標が目標値に達しなかった。 ・通いの場事業を中心に住民主体の介護予防の取組を一層推進するため、通いの場を地区に広く周知し参加を促すとともに、介護予防サポートリーダーや、フレイルサポーターの養成を通じて、介護予防に資する交流の場の創出と充実を図っていく。 ・介護予防サポートリーダーやフレイルサポーターも年々高齢となり体調が優れず活動できないサポーターが増えている。毎年養成講座を実施し育成を図っていく必要がある。 ・高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施としてフレイル予防事業に取り組み、主に通いの場で体組成計を使って筋肉量等の測定を行った。また理学療法士や看護師を派遣し専門的見地からフレイルチェックを実施した結果、地域包括支援センターにつながるケースもあった。通いの場の利用者は比較的社会参加ができていた高齢者であるため、通いの場利用者以外の高齢者へのアプローチが今後は必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防サポートリーダーやフレイルトレーナー、フレイルサポーターの養成を行うことで、介護予防の取組みが地域に広がることを期待できる。 ・高齢者通いの場を多く創出することで、高齢者の「仲間づくり」「生きがいづくり」「支え合い」の輪を広げることができると期待できる。 ・フレイル事業を通して保健医療の視点からの支援が加わることで通いの場等で専門職による健康相談を受けることができ、フレイル予防を意識した生活を送ることができるようになる。またフレイル状態にある者が適切に介護サービスにつながる可能性がある。
北杜市	2	①自立支援、介護予防・重度化防止	I (1)高齢者の社会参加と地域づくりの推進	I (1)高齢者の社会参加と地域づくりの推進	地域のつながり機能の強化(介護予防・日常生活支援総合事業の推進)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の実情に応じた地域住民による支え合いの体制づくりの強化。 ・事業所等が創意工夫を発揮できるサービス単価を定める。 ・要介護認定とんでも地域とのつながりを継続できる提供体制を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合事業利用者が要介護認定に移行しない割合は8割を維持している。総合事業利用者が早期に自立支援・重度化防止につなげていく取組が必要である。 ・通所型サービスBは通所訪問ともに担い手が不足しており、住民主体の団体育成・生活支援体制整備の第2層協議体(地域支え合い推進協議体)の設置及び取組の強化が求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通所型サービスB実施箇所数 R3:2箇所 R4:3箇所 R5:4箇所 ・訪問型サービスB実施箇所数 R3:1箇所 R4:1箇所 R5:2箇所 ・通所型サービスC実施参加者数 R3:500人 R4:500人 R5:500人 ・要支援者・事業対象者が要介護認定に移行しない率 R3:78% R4:79% R5:80% 	<ul style="list-style-type: none"> ・通所型サービスB実施箇所数 1箇所 ・訪問型サービスB実施箇所数 2箇所 ・通所型サービスC参加者数 503人 ・要支援者・事業対象者が要介護認定に移行しない率 R4:66.7% 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度に訪問型サービスBが新たに1箇所新規に立ち上がったことから計2箇所となった。通所型サービスBにおいては令和3年度は実施箇所が2箇所であったが、令和4年度は1箇所となった。通所型サービスCは予定通り実施できたことから目標値を達成できた。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度に訪問型サービスBが新たに1箇所新規に立ち上がったことから計2箇所となった。通所型サービスBにおいては令和3年度は実施箇所が2箇所であったが、令和4年度は1箇所となった。通所型サービスCは予定通り実施できたことから目標値を達成できた。 ・今後も高齢者が増加していくことから総合事業の利用や早期に専門的なサービスを促し、自立支援や重症化防止につなげられるような支援が必要となる。また健康な時からフレイル予防の意識を高め、現在の能力、機能の維持に努められるよう住民の意識改革が必要となってくる。 ・サービスBについては通所、訪問ともに今後更に人材の確保、住民主体の団体育成に努める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民主体型のサービスを創出することにより、高齢者同士が支え合う仕組みづくりができ、地域の実情にあったサービスの提供ができる。また超高齢化社会に向けてますます介護職の人手不足が懸念される中でインフォーマルなサービスの創出によって介護人材の不足を補う効果がある。 	

市町村名	番号	総括表			フェイスシート			令和4年度(実績評価)			取組の効果や成果として考えられること	
		【区分】 ①「自立支援、介護予防・重度化防止」 ②「介護給付適正化」から選択してください	【県計画との関連】 「県計画の目標」シートや「県計画概要版」を参考に、関連すると思われる県計画の項目を選択してください(当てはまらない場合や不明な場合は「その他」を選択してください)。	タイトル	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標(事業内容、指標等)	目標の評価方法	実施内容	自己評価 評価(1~5)		課題と対応策
北杜市	3	①自立支援、介護予防・重度化防止	I (4)介護人材の確保・定着、資質向上	I (3)介護待機者ゼロ社会の実現に向けた施設整備と在宅生活を支えるサービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジメントの延べ件数が近年減少傾向にある。 ・インフォーマルなサービスも含めて、軽度者への自立支援に向けたケアマネジメントを強化する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議を活用して、専門職の知見に基づき、自立支援に向けたケアマネジメントやインフォーマルサービスを盛り込まれたケアマネジメントを実施する。 ・介護支援専門員の人材確保と質の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジメント延べ件数 R3: 4,600件 R4: 4,700件 R5: 4,800件 ・要介護認定率 R3: 12.8% R4: 13.0% R5: 13.1% ・自立支援型地域ケア会議開催回数 R3: 7回 R4: 8回 R5: 8回 	ケアマネジメントのべ件数 要介護認定率 自立支援型地域ケア会議開催数 (市内の居宅事業所の介護支援専門員数)	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジメント件数は、4,447件(委託305件)である。 ・自立支援型地域ケア個別会議の事例提供は居宅介護支援事業所と包括支援センターでは同数にした。地域包括支援センターが占める割合が高いので地域包括支援センターから事例提供をする方向は継続する。また、居宅介護支援事業所の介護支援専門員が自由に参加できるように配慮が必要である。 ・介護支援専門員が地域包括支援センターに相談する内容の精査を継続し、今後も集団指導等で指導していく必要がある。 ・ケアマネジメント向上のための研修があれば研修に参加できるよう周知を徹底する。 ・北杜市の介護支援専門員の数が不足していることと高齢化していることが課題であるため、介護支援専門員数の把握は継続する必要がある。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジメント件数は、達成率93%である。目標値を下回っている。 ・要介護認定率は、13.7%である。目標値を上回っている。 ・自立支援型地域ケア会議は18件である。件数の達成率100%である。 ・要介護認定率は、高齢者の増加に反映し増加するものと考えられる。目標値を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援型個別ケア会議は専門家によるアドバイスを受ける機会になるのでアセスメント能力が向上し質の高いケアマネジメントにつながる。 ・介護支援専門員からの相談内容を整理分析し、集団指導をすることで質の高いケアマネジメントにつながる。 ・介護支援専門員の意見を聞くことで見分が広がりアセスメント能力の向上につながる。
北杜市	4	①自立支援、介護予防・重度化防止	I (1)高齢者の社会参加と地域づくりの推進	I (1)高齢者の社会参加と地域づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者の生きがいづくり ・令和元(2019)年度介護予防・日常生活圏域ニース調査において、一般高齢者のうち、71.0%が「趣味あり」、61.0%が「生きがいあり」と回答している。 ・「参加している地域の活動」としては、「町会・自治会」以外に参加していない人が最も多く、「スポーツ関係のグループやクラブ」「趣味関係のグループ」は他の活動と比較して、参加頻度が高くなっている。 ・いきいき山梨ねんりんピクニックの参加者や老人クラブの会員数は高齢化等の影響により減少傾向にある。 ○地域や社会での活躍の場づくり ・地域づくり活動への参加者としての参加意向は55.9%、企画・運営者としては42.9%となっており、企画者・運営者として関わりたい人の割合の方が小さくなっている。 ・令和元(2019)年度介護予防・日常生活圏域ニース調査において、「収入のある仕事」に週1回以上従事している人の割合は22.7%であり、平成28(2016)年度調査から5.3ポイント上昇している。 ・市社会福祉協議会の実施する、「ふれあいいきいきサロン事業」や各種出前講座、ボランティア養成講座等の地域住民のボランティアに結びつける活動は、既存のボランティア団体の高齢化により担い手が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者の生きがいづくり及び地域や社会での活躍の場づくり ・老人クラブ活動支援事業 ・高齢者祝福事業 ・お楽しみ給食サービス事業 ・外出支援サービス事業 ・高齢者雇用対策事業 	<ul style="list-style-type: none"> 老人クラブ活動支援事業 会員数 R3: 3,200人 R4: 3,200人 R5: 3,200人 高齢者祝福事業 88歳敬老祝金 R3: 370人 R4: 375人 R5: 380人 100歳敬老祝金 R3: 45人 R4: 48人 R5: 50人 お楽しみ給食サービス事業 配食数(飲料配布も含む) R3: 3,600食 R4: 3,600食 R5: 3,600食 外出支援サービス事業 対象者数 R3: 18人 R4: 19人 R5: 20人 高齢者雇用対策事業 シルバー人材センター登録会員数 R3: 480人 R4: 480人 R5: 480人 	目標値に対する実績で評価する。	<ul style="list-style-type: none"> 老人クラブ活動 支援事業 会員数 R4年度実績 2,807人 高齢者祝福事業 88歳敬老祝金 R4年度実績 351人 100歳敬老祝金 R4年度実績 27人 お楽しみ給食サービス事業 配食数(飲料配布も含む) R4年度実績 3,539食 外出支援サービス事業 対象者数 R4年度実績 20人 高齢者雇用対策事業 シルバー人材センター登録会員数 R4年度実績 436人 	2	<ul style="list-style-type: none"> 外出支援サービス事業において目標値を達成したが、その他の事業においては、会員数の減少やコロナ禍による活動の制限により目標値に達することができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の生きがいづくり及び健康づくりにつながる。 ・地域や社会での活躍の場づくりにつながる。
北杜市	5	①自立支援、介護予防・重度化防止	I (3)介護待機者ゼロ社会の実現に向けた施設整備と在宅生活を支えるサービスの充実	I (3)介護待機者ゼロ社会の実現に向けた施設整備と在宅生活を支えるサービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元(2019)年度介護予防・日常生活圏域ニース調査では「介護を受けたい場所」として「なるべく家族のみで、自宅で介護を受けたい」「介護保険制度のサービスや福祉サービスを使いながら自宅で生活したい」と回答した人は67.6%となっている。また、持ち家で暮らしたいというニーズを受けて、介護保険による住宅改修の認知度が高まってきている。 一方、令和元(2019)年度在宅介護実態調査では、在宅で生活している要支援・要介護認定者のうち、施設等への入所の検討状況を見ると、要介護3以上では「検討中」又は「申請済み」の割合は46.2%となっており、要介護度の高い住民では依然施設への入所意向がみられる。 また、在宅生活の継続のために特に必要だと考えられている施設は「通いによって入浴や食事のサービスが受けられる施設」「緊急時など必要なときに過ごすことができる・泊まれる施設」「通いを中心に訪問や泊まりができる施設」の回答が多くなっている。 サービス提供体制が十分でない地域があり、他エリアの事業所がカバーしているが、送迎に時間が掛かるなど、地域偏在による課題がみられる。また小規模多機能型居宅介護には、介護機能だけでなく高齢者の生活が楽しめるような場づくりが求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○老人福祉施設の整備及び高齢者の住まいの整備 地域介護・福祉空間整備費補助金 高齢者在宅生活支援住宅改修等助成事業補助金 ○高齢者向け住まいの在り方 シルバーハウジング生活援助員派遣事業 老人ホーム入所措置事業 生活支援ハウス運営事業 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域介護・福祉空間整備費補助金 補助金を活用して整備した施設数 R3: 0箇所 R4: 3箇所 R5: 0箇所 サービス提供体制の方針の検討会 R3: 1回 R4: 2回 R5: 3回 ○高齢者在宅生活支援住宅改修等助成事業補助金 利用件数 R3: 20件 R4: 20回 R5: 20回 ○高齢者向け住まいの在り方 特定施設入居者生活介護の指定を受けていないサービス付き高齢者向け住宅 設置数 R3: 5箇所 R4: 5箇所 R5: 5箇所 特定施設入居者生活介護の指定を受けていない有料老人ホーム 入居者数 R3: 94人 R4: 94人 R5: 94人 特定施設入居者生活介護の指定を受けていないサービス付き高齢者向け住宅 設置数 R3: 0人 R4: 0人 R5: 0人 入居者数 R3: 0人 R4: 0人 R5: 0人 ○シルバーハウジング生活援助員派遣事業 相談件数 R3: 30件 R4: 30件 R5: 30件 ○老人ホーム入所措置事業 入所措置者数 R3: 5人 R4: 5人 R5: 5人 生活支援ハウス運営事業 入居者数 R3: 1人 R4: 0人 R5: 0人 養護老人ホーム 入所(入居)者数 R3: 5人 R4: 5人 R5: 5人 軽費老人ホーム 入所(入居)者数 R3: 19人 R4: 20人 R5: 21人 生活支援ハウス 入所(入居)者数 R3: 1人 R4: 0人 R5: 0人 	目標値に対する実績で評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ○地域介護・福祉空間整備費補助金 補助金を活用して整備した施設数 R4年度実績: 0箇所 サービス提供体制の方針の検討会 R4年度実績: 0回 ○高齢者在宅生活支援住宅改修等助成事業補助金 利用件数 R4年度実績: 23件 ○高齢者向け住まいの在り方 特定施設入居者生活介護の指定を受けていないサービス付き高齢者向け住宅 設置数 R4年度実績: 4箇所 特定施設入居者生活介護の指定を受けていない有料老人ホーム 入居者数 R4年度実績: 94人 特定施設入居者生活介護の指定を受けていない有料老人ホーム 入居者数 R4年度実績: 0人 入居者数 R4年度実績: 0人 ○シルバーハウジング生活援助員派遣事業 相談件数 R4年度実績: 20件 ○老人ホーム入所措置事業 入所措置者数 R4年度実績: 3人 生活支援ハウス運営事業 入居者数 R4年度実績: 0人 養護老人ホーム 入所(入居)者数 R4年度実績: 3人 軽費老人ホーム 入所(入居)者数 R4年度実績: 0人 生活支援ハウス 入所(入居)者数 R4年度実績: 0人 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者在宅生活支援住宅改修等助成事業補助金について、目標値の利用件数を上回ることができた。 ・福祉課にかかる事業については、いずれの事業も目標値を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の健康長寿やまなしプランの施設整備方針を踏まえ、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、地域密着型サービスの提供体制の更なる充実を図る。 ・措置費用の算定にあたっては、基準づくりが必要となっており、居宅介護が困難な高齢者が身体的及び精神的に安定した生活を送ることができるよう体制を整備する。

市町村名	番号	総括表				フェイスシート				令和4年度(実績評価)			取組の効果や成果として考えられること	
		【区分】 ①「自立支援、介護予防・重度化防止」 ②「介護給付適正化」から選択してください	【県計画との関連】 「県計画の目標」シートや「県計画概要版」を参考に、関連すると思われる県計画の項目を選択してください(当てはまらない場合や不明な場合は「その他」を選択してください)。	タイトル	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標(事業内容、指標等)	目標の評価方法	実施内容	自己評価 評価(1~5)	課題と対応策			
北杜市	6	①自立支援、介護予防・重度化防止	I(5)医療と介護の連携の推進	I(5)医療と介護の連携の推進	医療と介護の連携	<p>・令和元(2019)年度介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では、在宅生活を維持するために必要なサービスとして「医師や看護師の訪問看護」が最も多く挙げられており、在宅医療に対するニーズが高くなっている。</p> <p>・在宅医療・介護連携推進会議が平成29(2017)年度に立ち上がり、市の医療と介護の連携における課題の検討を行っている。今後は令和7(2025)年に向けたビジョンの共有とその実現に向けた切れ目のない医療と介護の提供体制の構築が課題となる。</p> <p>情報共有部会で入院時情報提供共通シートを作成したほか、多職種連携部会で顔の見える関係づくりのための勉強会の企画を進めている。</p> <p>・令和元(2019)年度介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では、終末期に療養を望む場所として「自宅」が36.3%で最も多くなっており、ついで「病院」などの医療機関が多くなっている。エンディングノート作成意向(作成済みを含む)は58.5%に達し、自分らしい終末期を迎えることへの関心は高まっている。</p> <p>・また、親族がいない市民に対する支援の方法に困難があるといった声もみられるため、このような高齢者に対する取組に関して地域ケア連絡会等を活用して研修を実施している。</p>	<p>・在宅医療・介護等地域資源の把握と共有</p> <p>・在宅医療・介護における連携状況の調査と課題、対応策について検討実施状況(回数)</p> <p>・在宅医療・介護関係者の研修実施状況(開催回数)</p> <p>・市民への普及啓発(感染症などにより事業実施環境を考慮した啓発取組を含む)</p> <p>・在宅医療・介護連携に関する関係市町間の連携推進会議参加状況(広域、連携分科会)</p>	<p>・地域の医療・介護資源の最新情報の確認と把握、資源の共有及び啓発</p> <p>・在宅医療・介護連携推進会議の開催(2回開催:書面開催と対面開催)</p> <p>・連携課題の対応・多職種連携作業部会開催(2回)</p> <p>・在宅医療・介護関係者間の研修会開催(6回:オンライン・参集方式のハイブリッド型)</p> <p>・市民への普及啓発<ACPLについて></p> <p>・講演会0回(新型コロナウイルス感染症拡大による中止)</p> <p>・健康講座(アウトリーチ)2回</p> <p>・ホームページからの発信(想いのマップ・人生会議。<介護の魅力発信>(体験出前セミナー事業所とタイアップ事業)</p> <p>・高校生への発信(7回:同一対象者)</p> <p>・在宅医療・介護について総合的に啓発できる資料総合冊子の配布</p> <p>・在宅医療・介護連携に関する関係市町間の連携推進会議参加</p> <p>・中北保健所管内</p> <p>・在宅看取り、在宅医療体制検討部会(1回)</p> <p>・広域連携担当者書面会議(1回)</p> <p>・連携都市 在宅医療介護連携分科会(3回)</p>	5	<p>事業における取り組み状況は、計画どおりである。昨年度からの課題を踏まえ、多職種連携や関係者のスキルアップを目指した研修会は、開催時間を考慮(夜間の実施)して医師や介護従事者が広く参加できるようにした。感染症拡大を懸念して多くの市民が集う機会のACP講演会を中止してきたが、少人数での開催に手法を移行して、アウトリーチし啓発を行った。幅広い市民に啓発できる機会となった。</p>	<p>市民が住み慣れた地域で最期まで過ごすことができるよう、医療と介護の提供体制の基盤づくりとして、サービス提供体制の充実が望まれるが本市の現状は、通所介護や訪問介護、訪問看護、介護支援専門員など、従事者の高齢化や人材不足が大きな課題となっている。</p> <p>人材確保について、市内大を懸念して多くの市民が集う機会のACP講演会や関係者間だけでなく地域住民に介護について知ってもらう機会を作り、身近に感じてもらうことで関心や関わりを考えるきっかけ・話題作りにつなげることができる啓発内容を職域と協働で検討していく必要がある。</p>	<p>・地域の医療・介護サービスの資源把握や多職種による研修などの開催により、それぞれの職種の理解を深めることができ、在宅医療及び介護を一体的に提供できる体制の構築を推進することができる。</p> <p>・医療と介護、市民が連携することにより、高齢者の在宅での生活が可能となる。</p> <p>・課題を共有し、その解決に向けて検討することができ職域において協働で取り組みことに繋がる。</p> <p>・医療と介護の人材確保に繋がる。</p>		
北杜市	7	①自立支援、介護予防・重度化防止	I(6)多様な主体がともに支え合う地域共生社会の実現	I(6)多様な主体がともに支え合う地域共生社会の実現	地域ケア会議の開催	<p>・令和元(2019)年度における地域ケア個別会議は14回(支援困難型5回/自立支援型9回)開催し、抽出した地域課題を有効な政策につなげるための検討機会が求められる。</p> <p>・これまでの地域課題を整理・分析して、既存の会議を活用することにより、機能の充実を図り、地域包括ケアシステムの構築を進めていく必要がある。</p>	<p>・地域ケア会議の推進</p> <p>包括的・継続的ケアマネジメント業務の効率的な実施のため、医療、介護等の多職種や関係団体等が連携し、地域の課題を共有する中で地域包括ケアシステムの構築を推進する。</p>	<p>支援困難型地域ケア個別会議検討件数 実績値 R3:6件 R4:6件 R5:8件</p> <p>自立支援型地域ケア個別会議検討件数 R3:16件 R4:18件 R5:20件</p> <p>地域ケア連絡会開催回数 R3:6回 R4:6回 R5:6回</p> <p>地域ケア推進会議開催回数 R3:1回 R4:1回 R5:1回</p>	<p>支援困難型地域ケア個別会議検討件数</p> <p>自立支援型地域ケア個別会議検討件数</p> <p>地域ケア連絡会開催回数</p> <p>地域ケア推進会議開催回数</p>	<p>・支援困難型地域ケア個別会議検討件数 実績値 15件(実件数は15件)</p> <p>達成率100%</p> <p>複雑困難なケースが増加しているため、多職種と連携しながら課題の整理、役割分担を行い、介入している。1回の開催では解決できない場合は、再度開催するなど工夫を凝らしている。地域課題の抽出をしている。</p> <p>・自立支援型地域ケア個別会議検討件数 実績値 18件 達成率100%</p> <p>新型コロナ感染症の拡大により1回開催を中止したため、目標値を2件下回っている。地域ケア会議を推進するために1回を紙面会議とし、1回をZOOMによる会議を開催するなど工夫を凝らした。地域課題の抽出をしている。</p> <p>・地域ケア連絡会開催回数 実績値 6回 達成率100%</p> <p>・地域ケア推進会議開催回数 実績値 2回 達成率200%</p> <p>既存の会議体を活用し、地域ケア推進会議を開催した。地域課題を抽出し、課題の共有を図り、地域ケア推進会議の中で課題解決を図ることを共有した。</p>	5	<p>計画通り実施できている。目標の指数が件数や回数としているので、その実施に向けてICTを活用するなどして目標値に近づいている。</p>	<p>・今後は地域課題の解決のために庁内外の関係部署と課題について共有し、解決策を検討する必要がある。必要に応じて介護保険計画に反映させる必要がある。</p> <p>・生活支援体制整備事業の第1層協議体と会議の目的が同じであることからリンクさせて地域課題解決に取り組む必要がある。</p>	<p>各個別会議を開催し個別の課題から地域課題を抽出し課題解決に向けて検討し提言することが高齢者が住みやすい地域共生社会のための地域づくりにつながる。</p>

市町村名	番号	総括表			フェイスシート			令和4年度(実績評価)			取組の効果や成果として考えられること		
		【区分】 ①「自立支援、介護予防・重度化防止」 ②「介護給付適正化」から選択してください	【県計画との関連】 「県計画の目標」シートや「県計画概要版」を参考に、関連すると思われる県計画の項目を選択してください(当てはまらない場合や不明な場合は「その他」を選択してください)。	タイトル	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標(事業内容、指標等)	目標の評価方法	実施内容	自己評価 評価(1~5)		課題と対応策	
北杜市	8	①自立支援、介護予防・重度化防止	I(7)保険者機能の強化に向けた市町村支援	I(6)多様な主体がともに支え合う地域共生社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元(2019)年度介護予防・日常生活圏ニーズ調査では、地域包括支援センターの市民認知度は42.4%で、平成28(2016)年度の35.3%より7.1ポイント上昇した。 ・令和元(2019)年度介護事業所調査では、市に望む支援として「地域包括支援センターの機能の充実」と回答した事業所が75.5となっている。 ・総合相談支援業務としては、平成28年度より総合相談員を配置したことにより、迅速な対応が行えるようになった。しかし、身寄りのない高齢者や虐待など複雑・困難事例が増加傾向にあるため、より迅速・適切な対応できるよう、3職種(保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員)の人材確保及びスキルアップを図るとともに、専門性を活かしたチームアプローチの体制整備が必要である。 ・総合相談の内容を分析して、地域課題の把握を行い対応策につなげていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の複雑化・複合化したニーズに対応するため、人員体制を整え、機能強化を図る。また、包括的な相談支援体制の構築を見据えた関係機関との連携をとおして、センターの周知を行い、早期の相談対応に繋げている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合相談件数 R3:4,000件 R4:4,100件 R5:4,200件 ・新規相談件数 R3:1,250件 R4:1,300件 R5:1,350件 ・相談支援体制の充実(3職種正規職員配置状況) R3:7人 R4:8人 R5:9人 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談件数 ・専門職正規職員配置状況 	<ul style="list-style-type: none"> 総合相談事業 ・総合相談件数 R4年度実績:6,784件 ・新規相談件数(総合相談件数からの再掲) R4年度実績:1,489件 ・専門職員配置状況(正規職員配置状況再掲) ・保健師 R4年度実績:3人(2人) ・社会福祉士 R4年度実績:3人(3人)~R4年7月~1名退職し2人(2人) ・主任介護支援専門員 R4年度実績:3人(2人) 	5	<ul style="list-style-type: none"> 支援件数は年々増加している。加えて、支援困難事例においても多分野にまたがり複雑困難なケースが増加しており、支援に係る時間数の増加に職員数などの対応体制が追い付いていない現状がある。 相談事業では、高齢者世帯のみの増加、多問題を内包する支援件数が増加(特に権利擁護・成年後見・虐待・認知症の対応は昨年1年間で、1,034件から1,667件と1.6倍増)している。毎年、1.6~1.7倍の増加状況である。 解決困難な多問題を抱える支援には、個々のスキルだけでは解決することに限界があり、経験豊富な専門職を常勤として適切に配置し、スキルを上げることでチーム内で早期に解決できる体制を構築する必要がある。 また、複雑化している相談内容について分析し、地域課題の把握から重層的支援としての庁内連携にける対応策を検討していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 適切な職員の数の確保とスキルを上げることで地域包括支援センターの機能強化を図ることができる。多問題を内包するケースは、課を超えて支援することで解決につながる。 	
北杜市	9	①自立支援、介護予防・重度化防止	I(2)介護予防・健康づくりの推進	I(2)介護予防・健康づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元(2019)年度在宅介護実態調査では、在宅生活の継続に必要と感じる支援として、単身世帯(「見守り、声かけ」)の対応が最も多く、夫婦の世帯では「移送サービス」が17.2%で最も多く挙げられている。 ・令和3(2021)年度末時点の介護支援ボランティア登録者は197人で高齢者人口の1.1%となりましたが、活動実績のある登録者(ポイント転換)は24.9%に留まっている。 ・地域住民主体による高齢者外出支援サービス事業を実施し、今後も引き続き事業を行っていく予定であるが、依然として日常の買い物や通いの場の利用には外出支援が必要な課題である。特にボランティアスタッフの人材不足とボランティア活動に対する謝礼の在り方が課題となっている。 ・生活支援コーディネーターや協議体での検討が必要で、第2層協議体を市社会福祉協議会に委託し、第1層協議体を含めた、新たなサービスの創出に向けての取組が必要となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1層、第2層協議体においての、地域の課題の共有と新たな協議体設置に向けた検討 ・生活支援コーディネーターを中心とした、地域の支え合い体制の構築 ・高齢者が安心して外出できる環境づくり支援 ・ボランティア活動や就労の活動を通じて、生活支援の担い手となるような活動支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1層協議体会議 R3:3回 R4:3回 R5:3回 ・第2層協議体の設置 R3:3箇所 R4:4箇所 R5:5箇所 ・でかけ～の実施団体数 R3:2団体 R4:3団体 R5:3団体 ・介護用品支給事業 支給延べ人数 R3:1,600人 R4:1,550人 R5:1,500人 ・年間支給実人数 R3:180人 R4:175人 R5:170人 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1層協議体の会議開催数 ・第2層協議体の設置数。(日常生活圏内に1箇所) ・第2層協議体の設置目的及び設置に向けた取り組み状況 ・住民主体の生活支援サービス実施団体数 ・住民主体による高齢者外出支援サービスモデル事業の効果検証 ・新たなサービスの創出 ・新たなサービスの創出 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域づくり(地域生活を支える基盤の整備) ・第1層協議体会議の開催 協議体:1箇所 1回開催 ・第2層協議体の設置 0箇所(日常生活圏内に1箇所) ・第2層協議体の設置に向けた取り組み・打合せ会議:12回・研修会:20回 ・地域資源情報を収集・整理・活用するための「地域支援システムAyamu」を運用 ・生活支援コーディネーターの配置 第1層:1名 第2層:2名 ・住民主体の外出支援サービスの実施 団体数:2地区1団体(高根・大泉) ・住民主体による高齢者外出支援サービスモデル事業の効果および検証 ・新たなサービスの創出 実施団体数:1※(その他の生活支援サービス(配食・見守り)としてのモデル事業として実施) ・介護用品支給事業 支給延べ人数 R4年度実績:1,636人 年間支給実人数 R4年度実績:227人 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・第2層協議体の設置については、社会福祉協議会に業務委託を行い、設置に向けた打合せや研修会を開き、設置に向けた協議を重ねた。 ・生活支援コーディネーターについては、第1層コーディネーターを新たに配置し、また委託した社会福祉協議会の中にて、第2層コーディネーターの配置を行い、協議体設置に向けた準備を進めることができた。 ・住民による高齢者外出支援サービスモデル事業では、2地区1団体(高根・大泉)に、引き続き事業を委託した。また、H29年度からの課題や評価をもとに効果検証を行い、「住民主体による高齢者の外出支援サービスモデル事業」の検証結果により確認された事項をもとに、住民主体の生活支援サービス提供団体の創設に向け、地域の声を聴きながら、必要なサービス創出を検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な日常生活上の支援体制の充実及び強化並びに高齢者の社会参加の推進を図るため、生活支援コーディネーターの配置及び協議体を設置し、地域の支え合いを推進することができる。 ・住民主体による高齢者の外出支援及び生活支援の活動を促進し、多様な生活支援サービスの創出を図ることができる。 	
北杜市	10	①自立支援、介護予防・重度化防止	II 認知症施策の推進	II 認知症施策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化の進展に伴い、認知症高齢者数は増加傾向であり、平成28(2016)年度の389人から令和2(2010)年は613人まで増加している。認知症高齢者は今後も増加し続けるため、認知症になっても安心して暮らせる「共生社会」の地域づくりが重要視されている。 ・認知症は予防と早期の発見体制が重要ですが、令和元(2019)年度介護予防・日常生活圏ニーズ調査では、認知症相談窓口のある地域包括支援センターの認知度は42.4%となっている。また、2つの市立病院で認知症初期集中支援チームを配置していますが、令和元(2019)年度には認知症相談窓口がなかったり、市民からの認知度が低いことが課題である。 ・認知症についての理解やその対応方法について普及啓発するため、毎年認知症カフェを作成し、市民・関係機関・民生委員、ボランティア等に配布している。 ・令和元(2019)年度末時点の認知症サポーター養成講座は累計で7,167人が受講しているほか、市民キャラバン・メイト主催の養成講座開催回数も5回となり、市民が主体的に活動している。今後は認知症への理解を深めるだけでなく継続的な関わりにつなげていくことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 認知症の本人・家族が安心して住み慣れた地域で住み続けられる体制を整え、身近な人たちが支え手となるような普及啓発を行っていく。 認知症の早期発見、早期治療に結び付け、その人らしく生活が続けられる支援を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症初期集中支援チーム R3:2箇所 R4:2箇所 R5:2箇所 ・多職種協働研修会 R3:2回 R4:2回 R5:2回 ・認知症初期集中支援チームの支援達成率 R3:100% R4:100% R5:100% ・チームオレンジ研修会 R3:2回 R4:2回 R5:2回 ・チームオレンジ設置数 R3:0箇所 R4:0箇所 R5:2箇所 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症初期集中支援チーム設置数、支援達成率 ・多職種協働研修会開催回数 ・チームオレンジ設置に向けた取組状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症初期集中支援チーム1箇所稼働、チームの欠員により、支援ケースなし ・認知症初期集中支援チームの支援達成率 0% ・多職種協働研修会 2回(認知症サポート会の講義、認知症介護指導者の講義、グループワーク) ・チームオレンジ構築に向けたステップアップ研修 1回 ・認知症カフェパスにより、認知症の理解や対応方法について普及啓発した。 ・9月認知症月間に合わせて、市内図書館で認知症関連書籍コーナー設置した。 ・認知症地域支援推進員を1名配置し、中心となり、認知症の事業を展開した。 ・認知症チェックサイトにより、認知症の早期発見に繋がった。 ・認知症チェックサイトにより、認知症の早期発見に繋がった。 ・認知症チェックサイト数:5307件 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種協働研修会は2回実施し、顔の見える関係作りや連携について考えることが出来た。 ・認知症初期集中支援チームは1箇所のみ稼働したが、チームの欠員により、支援ケースはなかった。チームオレンジ構築に向けた研修会は1回にとどまらず、計画通りに実施出来なかった。 ・認知症チェックサイトは広報、ほとんどのニュース、認知症サポーター養成講座等、機会ある毎に周知し、アクセス数は伸びた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の早期発見及び早期対応に向けた支援体制を構築し、住み慣れた地域で生活することを促進することができる。 ・認知症の方及びその家族を支援する相談業務等を行う認知症地域支援推進員を配置することで、市民向け認知症ケア講習、認知症に関する多職種協働研修、認知症カフェの作成等を行い、認知症予防と家族支援が促進される。 	
北杜市	11	①自立支援、介護予防・重度化防止	II 認知症施策の推進	II 認知症施策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元(2019)年度における認知症カフェについては、介護保険事業所により市内5箇所で開催されている。今後は、周知に向け作成したガイドブックを活用し、認知症カフェの利用に向けて関係機関と連携して周知を推進する必要がある。 ・また、令和元(2019)年度における家族介護支援事業は、介護者の負担軽減に向けて、対話型アートプログラムを2回、男性介護者のつどいを5回行った。対話型アートプログラムは参加者の表情も柔らかく、生の声がたくさん聞かれましたが、男性介護者のつどいは、男性介護者の参加者が少ないなど課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 認知症について正しい理解がある市民を増やす為に、認知症サポーター養成講座を行い、地域での見守りの目を増やしていく。また、気軽に集える場であるオレンジカフェを増やしたり、介護者の支援として相談の機会を増やしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成登録者数 R3:7,800人 R4:8,100人 R5:8,600人 ・オレンジカフェ設置数 R3:5箇所 R4:6箇所 R5:7箇所 ・介護者のつどい R3:6回 R4:6回 R5:6回 ・認知症高齢者等支援ネットワーク設置数 R3:1箇所 R4:1箇所 R5:1箇所 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成登録者数 ・オレンジカフェ設置数 ・介護者のつどい実施回数 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター登録者数:8,614人 ・オレンジカフェ設置数:5箇所 ・介護者のつどい:12回 ・221名参加 ・認知症高齢者等支援ネットワーク事業:事前登録者数10名 ・検索協力機関登録数:37件 ・事象発生件数:0件 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成講座は一般からの申し込みもあり、登録累計数も増加している。 ・オレンジカフェは新型コロナウイルス感染症拡大の為に、1箇所は休止状態であったが、他の会場は定期開催が出来た。 ・介護者のつどいは、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から集合型での開催が制限されている。その為、人数が減少している。 ・認知症高齢者等支援ネットワーク事業の運用を開始し、事前登録、協力機関登録を進める事が出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症高齢者等支援ネットワーク事業におかえり伝言板を追加し、事業周知を行っている。おかえり伝言板を市民に普及啓発する事で、認知症の人と家族等が安心して地域で暮らせるような体制づくりを進めている。 ・認知症サポーター養成講座を継続して行う事により、認知症についての正しい理解がある市民を増やし、優しい街づくりを継続していく。 ・認知症サポーター養成講座を受けた方がその後の活動に意欲を持っているよう働きかけを行い、チームオレンジ構築につなげていく。 ・認知症の方も含め、市民が気軽に集まれる場所としてオレンジカフェの新規開始を行っている。(特にオレンジカフェの設置がない町) 	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの市民が、認知症について正しく理解し、認知症高齢者及びその家族を温かく見守り支援することが出来る。 ・地域住民の認知症の理解が深まる。 ・認知症の方や家族を見守る地域の体制を整えることが出来る。

市町村名	番号	総括表			フェイスシート			令和4年度(実績評価)			取組の効果や成果として考えられること		
		【区分】 ①「自立支援、介護予防・重度化防止」 ②「介護給付適正化」から選択してください	【県計画との関連】 「県計画の目標」シートや「県計画概要版」を参考に、関連すると思われる県計画の項目を選択してください(当てはまらない場合や不明な場合は「その他」を選択してください)。	タイトル	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標(事業内容、指標等)	目標の評価方法	実施内容	自己評価 評価(1~5)		課題と対応策	
北杜市	12	①自立支援、介護予防・重度化防止	I(8)高齢者の尊厳の保持と安全の確保	I(8)高齢者の尊厳の保持と安全の確保	認知症高齢者等の権利擁護に関する取組の推進 ・今後、認知症高齢者が一層増加する中で、当事者が地域で暮らしていくために、認知症高齢者を含む高齢者が虐待や消費者被害等の権利侵害を受けないうち、成年後見制度の利用促進や適切な虐待対応を実施することが必要である。 ・成年後見制度の活用ニーズを捉え、関係部署と連携して利用の促進を図ることが必要である。 ・市民後見人の育成を見据えた体制整備を関係部署と協議・情報共有を図る必要がある。 ・市社会福祉協議会と協働し、生活困窮者及び認知症高齢者等に対する様々な福祉制度の概要説明や相談機関を明記したパンフレットを作成するなど、周知する必要がある。	権利擁護事業として、高齢者の尊厳の保持のため、高齢者虐待を含む権利擁護の相談支援を地域包括支援センターで実施する。 ・高齢者虐待対応を実施する上で、高齢者と養護者の分離が必要な場合には、高齢者虐待一時保護事業により保護を実施する。 ・成年後見制度利用促進事業では、別に定める要綱により、市長申立てに限らず、申立て費用や報酬の助成を行う。 ・成年後見制度利用促進事業により、中核的な機関の設置を目指す。	・権利擁護事業 普及啓発回数 R3:25回 R4:30回 R5:30回 相談件数 R3:160件 R4:170件 R5:180件 ・成年後見制度利用支援事業 利用件数 R3:2件 R4:3件 R5:3件 ・成年後見制度利用促進事業 研修会参加人数 R3:25人 R4:25人 R5:25人 ※高齢者一時保護事業は、生命身体に重大な危険が生じる場合の対応となるため、目標設定していない。	権利擁護事業:普及啓発回数、相談件数 成年後見制度利用支援事業:利用件数 成年後見制度利用促進事業:研修会参加人数 高齢者虐待一時保護事業:対応件数	・権利擁護事業 普及啓発回数 R4年度実績:12回、相談件数 R4年度実績:694件 ・成年後見制度利用支援事業 報酬助成利用件数 R4年度実績:6件、申立費用助成件数 R4年度実績:8件 ・成年後見制度利用促進事業 R4年度実績:中核機関に繋いだ件数:26件 ・高齢者虐待一時保護事業 対応件数 R4年度実績:0件	5	現状では、計画通り進んでいる。認知症高齢者の増加に伴い、相談対応件数は今後も増加していくことが考えられる。地域包括支援センターの体制を強化することにより、増加するニーズに対応している。	権利擁護支援が必要な相談対応については、より複雑困難さを増してきているため、専門職員のスキルアップとマンパワーの確保が必要である。 高齢者虐待や権利擁護に関する対応や支援を専門的に行う職員を確保していく。また、成年後見制度の利用ニーズに対応するために、中核的な機関との連携を強化していく。	・高齢者虐待や消費者被害など権利侵害からの保護や救済を行うことができるようになる。 ・成年後見制度の利用を促進することにより、認知症高齢者が法律行為が可能となる。
北杜市	13	①自立支援、介護予防・重度化防止	I(8)高齢者の尊厳の保持と安全の確保	I(8)高齢者の尊厳の保持と安全の確保	○見守りネットワークの構築 ・事業所及び関係団体と協働により、見守りのネットワークを構築しており、異変の早期発見につながっている。また、情報交換をすすめる中で、お互いの活動と課題を共有している。 ・地域間の関係性が希薄化し、孤立する高齢者が増えつつあるため、今後は近所付き合いを大切に相互の機能を強化するとともに、事業所及び市民に周知し、活動の輪を広げていくことが必要である。 ○防犯・防災対策の充実 ・消防防災課を中心に、区長会、民生委員・児童委員協議会に出席し事業説明を行い、制度の周知及び同意書の提出に御協力いただきながら、避難行動要支援者名簿の整理を行う。また、毎月要支援者台帳システムにより要支援者の管理を行っているが、市内に約2,400名いる要支援者からの同意書の取得が課題である。	○見守りネットワークの構築 ・ふれあいベジタント事業 ○防犯・防災対策の充実 ・あんきちゃんネットワーク ・災害時要支援者支援事業	・ふれあいベジタント事業 保有台数 R3:100台 R4:100台 R5:100台 設置率 R3:65% R4:68% R5:70% 緊急通報件数 R3:5件 R4:5件 R5:5件 ・あんきちゃんネットワーク 協力事業者数 R3:25事業所 R4:25事業所 R5:25事業所 通報件数 R3:6件 R4:6件 R5:6件 ・災害時要支援者支援事業 制度周知 R3:18回 R4:18回 R5:20回	目標値に対する実績で評価する。	・ふれあいベジタント事業 保有台数 R4年度実績:100台 設置率 R4年度実績:50% 緊急通報件数 R4年度実績:7件 ・あんきちゃんネットワーク 協力事業者数 R4年度実績:24事業所 通報件数 R4年度実績:7件 ・災害時要支援者支援事業 制度周知 R4年度実績:8回	3	・目標値に対し概ね達成しており、緊急時への対応など成果を上げている。	・見守りネットワークの構築に向け、今後も継続して協力事業所及び団体との情報交換を行い、緩やかな見守りの中で異変の早期発見に努める。	・近所付き合いを大切に相互の機能強化を図ることで見守りネットワークの構築ができる。 ・避難行動要支援者名簿の作成及び活用により、防犯・防災対策の充実を図ることができる。
北杜市	14	①自立支援、介護予防・重度化防止	I(7)保険者機能の強化に向けた市町村支援	I(7)保険者機能の強化に向けた市町村支援	PDCAプロセスの推進、保険者機能強化推進交付金・介護保険保険者努力支援交付金の評価指標に沿った取組を推進し、財源を確保することが重要である。 ・満点を取ることで難しい評価項目について、PDCAプロセス評価を活用し取組の改善を行うことが求められている。	安定的な財源の確保 ・PDCAプロセス評価・検証の実施、交付金	PDCAプロセス評価・検証の実施、交付金口 保険者機能強化推進交付金・介護保険保険者努力支援交付金 R3:23,000千円 R4:23,000千円 R5:23,000千円	交付金の額による評価	PDCAプロセス評価・検証の実施、交付金口 保険者機能強化推進交付金・介護保険保険者努力支援交付金 R4年度実績:19,635千円	5	目標値には届かなかったが、概ね達成となった。	・保険者機能強化推進交付金について、地域支援事業及び保健福祉事業等を充実して行う高齢者の自立支援、介護予防・重度化防止、給付費適正化に必要な取組及びそれらの実施に必要な人材の確保に取り組む。 ・介護保険保険者努力支援交付金について、地域支援事業を充実して行う高齢者の介護予防・健康づくりに必要な取組のうち、介護予防・日常生活支援総合事業、包括的支援事業のうち包括的・継続的ケアマネジメント支援事業、在宅医療・介護連携推進事業、生活支援体制整備事業及び認知症総合支援事業の充実を図る。	・介護予防・健康づくり等に資する取り組みを着実に実施・推進し、安定的な財源を確保することができる。

市町村名	番号	総括表		フェイスシート				令和4年度(実績評価)			取組の効果や成果として考えられること
		【区分】 ①「自立支援、介護予防・重度化防止」 ②「介護給付適正化」から選択してください	【県計画との関連】 「県計画の目標」シートや「県計画概要版」を参考に、関連すると思われる県計画の項目を選択してください(当てはまらない場合や不明な場合は「その他」を選択してください)。	タイトル	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標(事業内容、指標等)	目標の評価方法	実施内容	自己評価 評価(1~5)	
北杜市	15	②介護給付適正化	IV 介護給付適正化の推進	IV 介護給付適正化の推進	データの利活用と介護給付適正化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○要介護認定の適正化 <ul style="list-style-type: none"> 山梨県主催の要介護認定研修会に参加するほか、市単位の研修会を設け、認定調査員全体のレベル向上を図る。 また、e-ラーニングシステムの積極的な活用を行い、他の保健者との比較を行い、突出している調査項目がないか自己分析を行う。 ○ケアプラン点検 <ul style="list-style-type: none"> 専門職によるケアプランの点検を行い、本人の身体状況に適切なサービスが提供されているかの確認や記号等の勘定、サービス提供の助言などより効果的なケアプランになるよう支援する。 同時に、不適切と考えられる案件については指導を行う。 具体的には、ケアプランチェックシート(ケアプランの第1表、第2表、第3表及びアセスメント表)等するチェックシートを、点検を実施する介護支援事業所に作成依頼し提出を求め、これをとじ、保健者が詳細内容や疑問点をチェックシートに記載したり、再提出が必要な事項を記載したりする。結果をまとめて報告するが、その際再提出の必要な案件については7日を目標に保健者へ提出してもらう。再提出の依頼は担当ケアマネージャーが、確認が不明でない場合は県単保連に相談し、過誤請求を行う。 ○在宅点検等の点検 <ul style="list-style-type: none"> 高齢者が住み慣れた地域で生活することを支援するため、生活環境を整えるための相談を行う。 本市は持ち家率が高いことから、自宅での転倒などによる重度化防止の観点から、リフトを抑制した安全な住環境のものとでの生活が実現している。 ○縦覧点検・医療情報との突合 <ul style="list-style-type: none"> 高齢化の進展に伴い、介護給付等に要する費用が増大することが見込まれている。 ○縦覧点検・医療情報との突合 <ul style="list-style-type: none"> 地域ケア連絡において、市内介護事業所を中心とした連携を行う。 国保連の給付適正化システムから提供される情報を活用し、請求情報の縦覧点検や介護医療情報との突合による請求実績の確認を行う。 ○介護給付費通知 <ul style="list-style-type: none"> 国保連委託により確認リストに抽出された案件について関係機関に確認を行う。必要に応じては請求申請を指示する。 ○介護給付費通知 <ul style="list-style-type: none"> 当該年度の上半期に利用しているサービス状況を被保険者に確認してもらうことで、実際には受けていないサービスや不正な請求を把握し、不正請求を防止するための通知を行う。 ○介護給付費通知 <ul style="list-style-type: none"> 当該年度の上半期に利用しているサービス状況を被保険者に確認してもらうことで、実際には受けていないサービスや不正な請求を把握し、不正請求を防止するための通知を行う。 ○介護給付費通知 <ul style="list-style-type: none"> 当該年度の上半期に利用しているサービス状況を被保険者に確認してもらうことで、実際には受けていないサービスや不正な請求を把握し、不正請求を防止するための通知を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○介護保険料徴収事業 <ul style="list-style-type: none"> 現年度収納率R3 99.7% R4 99.7% ○介護認定審査事業 <ul style="list-style-type: none"> 認定調査件数 目標値 R3 2,230件 R4 2,260件 R5 2,380件 審査件数 目標値 R3 2,230件 R4 2,260件 R5 2,380件 ○介護認定申請件数 <ul style="list-style-type: none"> 申請件数 目標値 R3 10件 R4 20件 R5 30件 ○介護保険給付事業 <ul style="list-style-type: none"> 介護サービス件数 目標値 R3 76,000件 R4 80,000件 R5 84,000件 ○介護保険低所得者補助事業 <ul style="list-style-type: none"> 対象事業所数 R4 年度実績 4 	<ul style="list-style-type: none"> ・要介護認定調査票の確認と課題の把握 R4年度実績:1,651件 ・見える化システムの活用と課題の把握 R4年度実績:0回 ・要介護認定の適正化1,651件 ・内部研修会の実施 特記事項記入のための研修を実施 1回 ・県主催の研修会への参加2回(新任向け1回、現任向け1回) ・厚生労働省要介護認定適正化事業による業務分析データの活用 1回 ・ケアプラン点検数 2事業所 12件 ・厚生労働省要介護認定適正化事業による業務分析データの活用 1回 ・ケアプラン点検数 2事業所 12件 ・福祉用具購入に伴うケアプラン点検数 187件 ・各協議書提出に伴うケアプラン点検数 38件 ・住宅改修等の事前点検64件(介護34件、予防30件) ・縦覧点検・医療情報との突合点検数 12回 ・介護給付費の通知1,749通 	3	<ul style="list-style-type: none"> (要介護認定の適正化) <ul style="list-style-type: none"> ・要介護認定の適正化件数は、制度改正に伴う認定有効期間の延長や、資格喪失者がいることにより、目標と乖離している。 ・その他、概ね目標達成ができた。(ケアプランの点検) <ul style="list-style-type: none"> ・運用指針により、専門職(介護支援専門員)によるケアプラン点検を実施した。運用指針に基づき、福祉用具購入、各種協議書提出時及び後述の住宅改修申請時においても、ケアプラン点検を行った。(住宅改修費の点検) <ul style="list-style-type: none"> ・申請書にケアプランの添付を求められており、専門職(介護支援専門員)がケアプランと希望する改修内容の整合性の確認を必ず行っている。 ・住宅改修の申請があった場合、改修前に訪問調査を行い、専門職(理学療法士・作業療法士等)の見解に基づき、当該住宅改修が効果的であるか判断を行う体制を構築している。これによって、利用者の自立支援に資する適切な改修内容の把握や、不要な改修の取り止め等の給付費の適正化につながった。 (縦覧点検・医療情報との突合) <ul style="list-style-type: none"> ・毎月国保連に委託している「領りやすい加算の請求があるため、事業所への個別指導だけでなく、集団指導等を利用して事業公表し、共有することを積み重ねていく。 ・介護給付適正化の推進のため、国保連から提供される情報をより有効活用できるように努める。(介護給付費通知) <ul style="list-style-type: none"> ・利用しているサービス状況を被保険者に確認してもらうことで、不正請求の発見及び不適切な業者の発見に繋ぎ、給付費の適正化に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認定に関する各種データの分析等を行い、全国の市町村と比較しながら認定調査の標準化に取り組む。 ・市の視点からケアプランの確認を行い、その結果に基づき助言及び指導を行うことで、介護サービスの適正化につなげる。 ・縦覧点検等の結果、請求誤りや判断されたものについては、事業所等に通知し、過誤処理を行う等、事業所等が請求誤り等のデータについて確認し、必要に応じて再請求を行うことで給付の適正化が図られる。
北杜市	16	①自立支援、介護予防・重度化防止	I (4)介護人材の確保・定着、資質向上	I (4)介護人材の確保・定着、資質向上	介護人材の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元(2019)年度介護事業所調査では全体の約5割が、職員が不足していると回答しており、特に小規模な事業所において介護に従事する職員の不足によって介護サービスの提供に支障があると回答する割合が高くなっている。 また、職員の募集に向けて活用している媒体や手段としては、「ハローワーク」が80.0%も多く、「知人紹介」が32.5%となっている。北杜市介護事業所PR冊子の利用は32.5%にとどまっている。 令和元(2019)年度介護事業所調査では、定着率が低い状況ですが、人材の確保に向けては本人の希望に応じた労働環境の改善等を通じて介護離職者を防止する手段も必要である。 介護人材の確保・資質の向上の観点から、地域の実情に応じた新たな取組を模索する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・北杜市介護事業所PR事業 PR事業所数 R3: 40所 R4: 42所 R5: 44所 ・北杜市介護に関する人間的研修事業受講者数 R3: 20人 R4: 20人 R5: 20人 ・事業所とのマッチング支援数 R3: 1回 R4: 1回 R5: 1回 ・北杜市介護サービス事業所優良事業所・優良職員表彰 <ul style="list-style-type: none"> 優良事業所表彰数 R3: 2人 R4: 2人 R5: 2人 優良職員表彰数 R3: 10人 R4: 10人 R5: 10人 ・北杜市介護人材資格取得費用助成金交付 <ul style="list-style-type: none"> 利用者数 R3: 30人 R4: 30人 R5: 30人 ・北杜市介護サービス事業所優良事業所・優良職員表彰 <ul style="list-style-type: none"> 優良事業所表彰数 R3: 2人 R4: 2人 R5: 2人 優良職員表彰数 R3: 10人 R4: 10人 R5: 10人 ・北杜市介護人材資格取得費用助成金交付 <ul style="list-style-type: none"> 利用者数 R3: 30人 R4: 30人 R5: 30人 ・北杜市介護サービス事業所優良事業所・優良職員表彰 <ul style="list-style-type: none"> 優良事業所表彰数 R3: 2人 R4: 2人 R5: 2人 優良職員表彰数 R3: 10人 R4: 10人 R5: 10人 ・北杜市介護人材資格取得費用助成金交付 <ul style="list-style-type: none"> 利用者数 R3: 30人 R4: 30人 R5: 30人 ・北杜市介護サービス事業所優良事業所・優良職員表彰 <ul style="list-style-type: none"> 優良事業所表彰数 R3: 2人 R4: 2人 R5: 2人 優良職員表彰数 R3: 10人 R4: 10人 R5: 10人 ・北杜市介護人材資格取得費用助成金交付 <ul style="list-style-type: none"> 利用者数 R3: 30人 R4: 30人 R5: 30人 ・北杜市介護サービス事業所優良事業所・優良職員表彰 <ul style="list-style-type: none"> 優良事業所表彰数 R3: 2人 R4: 2人 R5: 2人 優良職員表彰数 R3: 10人 R4: 10人 R5: 10人 	<ul style="list-style-type: none"> ・北杜市介護事業所PR事業 PR事業所数 R4年度実績:0所 ・北杜市介護に関する人間的研修事業受講者数 R4年度実績:12人 ・事業所とのマッチング支援数 R4年度実績:0回 ・北杜市介護サービス事業所優良事業所・優良職員表彰 <ul style="list-style-type: none"> 優良事業所表彰数 R4年度実績:0人 優良職員表彰数 R4年度実績:2人 ・北杜市介護人材資格取得費用助成金交付 <ul style="list-style-type: none"> 利用者数 R4年度実績:9人 ・北杜市介護人材資格取得費用助成金交付 <ul style="list-style-type: none"> 利用者数 R4年度実績:9人 ・北杜市介護サービス事業所優良事業所・優良職員表彰 <ul style="list-style-type: none"> 優良事業所表彰数 R4年度実績:0人 優良職員表彰数 R4年度実績:2人 ・北杜市介護人材資格取得費用助成金交付 <ul style="list-style-type: none"> 利用者数 R4年度実績:9人 ・北杜市介護サービス事業所優良事業所・優良職員表彰 <ul style="list-style-type: none"> 優良事業所表彰数 R4年度実績:0人 優良職員表彰数 R4年度実績:2人 ・北杜市介護人材資格取得費用助成金交付 <ul style="list-style-type: none"> 利用者数 R4年度実績:9人 ・北杜市介護サービス事業所優良事業所・優良職員表彰 <ul style="list-style-type: none"> 優良事業所表彰数 R4年度実績:0人 優良職員表彰数 R4年度実績:2人 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・介護人材資格取得費用助成金の交付について、広く周知しているが、市内事業所に5年間勤務する助成要件もあって、利用者数が少なかった。 介護に関する人間的研修については、高齢者の受講者数も多く、雇用のマッチングには繋がっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国の通知に基づく介護に関する人間的研修を実施し、研修修了者の希望により介護事業所とのマッチングに取り組む。 働きやすき活力ある職場づくりを取り組む介護サービス事業所及び自己研鑽に励み利用者本位のサービスを提供する等他の模範となるような介護職員を表彰することにも、やりがいを醸成することにより良質な介護サービスの提供を確保する。 介護人材の確保及び育成を図り、サービスの提供に必要となる専門資格の取得を積極的に支援する
北杜市	17	①自立支援、介護予防・重度化防止	I (4)介護人材の確保・定着、資質向上	I (4)介護人材の確保・定着、資質向上	介護現場の革新	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の効率化・質の向上の観点から、介護現場の文書に係る負担軽減を図る必要がある。 今後、高齢者の増加に伴う要介護認定申請件数の増加が見込まれることから、要介護認定における業務の簡素化を図る必要がある。 介護保険制度の安定した財政基盤を確保する必要がある。 低所得者・生計困難者等について、負担軽減を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○介護保険料徴収事業 <ul style="list-style-type: none"> 現年度収納率R3 99.7% R4 99.7% ○介護認定審査事業 <ul style="list-style-type: none"> 認定調査件数 目標値 R3 2,230件 R4 2,260件 R5 2,380件 審査件数 目標値 R3 2,230件 R4 2,260件 R5 2,380件 ○介護認定申請件数 <ul style="list-style-type: none"> 申請件数 目標値 R3 10件 R4 20件 R5 30件 ○介護保険給付事業 <ul style="list-style-type: none"> 介護サービス件数 目標値 R3 76,000件 R4 80,000件 R5 84,000件 ○介護保険低所得者補助事業 <ul style="list-style-type: none"> 対象事業所数 R4 年度実績 4 	<ul style="list-style-type: none"> ○介護保険料徴収事業 <ul style="list-style-type: none"> 現年度収納率R3 99.7% R4 99.7% ○介護認定審査事業 <ul style="list-style-type: none"> 認定調査件数 目標値 R3 2,230件 R4 2,260件 R5 2,380件 審査件数 目標値 R3 2,230件 R4 2,260件 R5 2,380件 ○介護認定申請件数 <ul style="list-style-type: none"> 申請件数 目標値 R3 10件 R4 20件 R5 30件 ○介護保険給付事業 <ul style="list-style-type: none"> 介護サービス件数 目標値 R3 76,000件 R4 80,000件 R5 84,000件 ○介護保険低所得者補助事業 <ul style="list-style-type: none"> 対象事業所数 R4 年度実績 4 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・認定調査件数について、厚生労働省からの通知により、新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から臨時的な取扱いとして12ヶ月有効期間の延長措置が取られ、適用申請者が増えたことにより調査件数が減少した中、申請受理日から円滑な調査依頼ができた。 介護ワストップサービス利用件数について、マイナンバーとマイナンバーカードを読み取る専用のカードリッジが必要となり、所有している人が極めて少ないため、利用件数が0件となった。 介護保険給付事業について、目標値80,000件より約4,000件減の76,016件となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度の安定した財政基盤を確保するため、介護保険法に基づき、第1号被保険者の介護保険料の賦課・徴収を行う。 認定調査件数について、今後も要介護認定者は増加が見込まれるため、申請があった際は、円滑な調査依頼を行う。厚生労働省の臨時的な取扱いが終了後、調査件数の増加が見込まれるため、調査員の確保や質の向上に努める。 審査件数について、厚生労働省の臨時的な取扱いが終了後、審査件数の増加が見込まれるため、審査員の質の向上によるスピードアップや審査数を増やすなどの対応を行う。 利用者への適切な給付を行うため、今後も介護サービス件数について、注視・確認を行う。 低所得者の利用負担を緩和し、介護保険サービスの利用促進を

市町村名	番号	総括表			フェイスシート					令和4年度(実績評価)			取組の効果や成果として考えられること
		【区分】 ①「自立支援、介護予防・重度化防止」 ②「介護給付適正化」 から選択してください	【県計画との関連】 「県計画の目標」シートや「県計画概要版」を参考に、関連すると思われる県計画の項目を選択してください(当てはまらない場合や不明な場合は「その他」を選択してください)。	タイトル	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	目標の評価方法	実施内容	自己評価 評価 (1~5)	課題と対応策		
							目標値 R3 4者B4 4者 R5 4者		者		た。 ・介護保険低所得者補助事業について、目標値とおりの対象者数となった。	図るため、引き継ぎ社会福祉法人等が実施する生計困難者等に対する介護保険サービスに係る利用者負担軽減制度を促進する。	